

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	1290100237		
法人名	医療法人社団 長啓会		
事業所名	グループホーム 千葉寒川の家 1階		
所在地	千葉県千葉市中央区寒川町1丁目249-2		
自己評価作成日	平成28年8月12日	評価結果市町村受理日	平成28年11月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社アミュレット
所在地	東京都中央区銀座5-6-12みゆきビルbizcube7階
訪問調査日	平成28年9月1日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

<p>利用者様の笑顔が多くみれるように職員全員が笑顔で接することを心がけています。できる限り利用者様の要望に応えられるように取り組んでいます。</p>
---

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

<p>利用者が楽しく、快適に生活できる様に利用者が行ってみたいと要望する場所に個別で出かけたり、食べたい物を外食を通じて楽しめるように支援しています。常勤職員が中心となり「より良きホームを作るため」の意見を挙げ、利用者が楽しく生活が送れるホームを一丸となり目指しています。地域住民とも良好な関係を築き、ホーム主催の流しそうめんに招待したり、近隣神社のお祭りでは子ども神輿がホーム前に立ち寄り、子ども達との交流が出来ます。今後も保育園児との交流などを通じて子ども達とのふれあいを増やしていく事を検討しています。利用者主体の生活の実現に向け一丸となり取り組む姿勢が確認できました。</p>
--

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	政本グループの理念・運営目標を理解し、それに沿ったサービスを提供している。	法人本部で週に一度実施している朝礼の議事録がホームにも配信され、朝礼の議事内容の確認と共に、議事録内に記載されている法人理念についても全職員が確認できるようにしています。それを踏まえて常勤職員より「良き介護施設を作るため」の一言を発表する様にしています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会行事にできる限り参加できるようにしている。流しそうめんレク実施時近隣住民の方を誘い、参加して頂きました。	近隣神社のお祭りでは、子ども神輿がホームの前に立ち寄ってくれたり、ホームで開催した流しそうめんに近隣住民の子ども達の参加があるなど、近隣との交流も徐々に広がってきています。	ホームでは現在子ども達との交流の幅を広げていく事を検討しています。保育園児の交流など、具体的な取り組みが進行していく事を期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	3ヶ月に1度の運営推進会議にてホームの状況、認知症のことを説明している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の中で意見や発案されたことについては話し合い迅速に対応できるようにし、サービスの向上に生かしている。	3ヶ月に一度のペースで会議を開催しています。会議には自治会長、民生委員、地域包括ケアセンター、家族の方が参加しています。ホームの近況や事故についての報告のほか、参加者からの意見を収集し、サービス向上につなげています。	今後に向けては、ホーム側からの報告のみではなく、参加者からの意見も幅広く収集し、地域の意見を参考に今後の運営や支援の向上につなげていく事を期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	電話や書類提出時に現状の報告等を行っている。	管理者等の変更届の提出に法人の地域責任者と出向き、市の担当者と連携を図っています。市からもホームに対して注意喚起を促す通達文書が送られ、夜間の施錠の徹底につなげる等の取り組みを行っています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中帯は玄関ドアの施錠を解除している。中庭へのドアは常に開放しており、自由に入出りできるようにしている。	身体拘束をしないケアに向けて、年間の研修計画に虐待防止や身体拘束廃止についてを組み込み職員の意識を高めています。日中ホームの玄関は開錠しており、身体拘束につながる事例も発生していません。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修で理解を深めている。		

グループホーム千葉寒川の家(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用している方はいないが、玄関にポスターを掲示し、必要に応じて活用していく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	面会時やケアプラン変更、更新時に利用者様とご家族に説明を行い、理解・納得して頂けるように取り組んでいる。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に最近の様子や気になることを伝えられている。そのときに意見や要望を聴きすぐに反映できるように取り組んでいる。	運営に関しての家族からの意向については主に運営推進会議で確認しています。ホーム外に設置している非常階段が滑り易いのではという意見に対し、滑り止めを設置するなど、改善に向けた取り組みが確認できました。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度職員会議を行い、意見や提案を言える場を作っている。その結果をもとにより良い施設になるように努めている。	職員の意見については毎月各ユニット合同の職員会議を開き、職員からの気づきなどを表出できるように取り組んでいます。利用者の支援方針についてもユニットごとでケース会議を開き、職員の意見を収集しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則に従い、個々の状況を把握している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修を通じて、個々の技術、知識の向上を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部の研修を通じて、交流の機会を作り取り組んでいる。		

グループホーム千葉寒川の家(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	慣れない環境の中なのでコミュニケーションを積極的にとり、安心できるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の要望、わからないこと、不安なことをきいて何でも話せるような関係が築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントをし、なにが必要なのかを見極めまた家族からの要望も反映し対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	1人1人レベルが違う為できることを見つけ、一緒にするようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に日々の様子を伝えたり、また面会にあまり来れない家族には電話連絡で様子を伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親族以外の方の面会はないため、縁のある場所を訪れる機会を増やせるように職員同士で話し合いをし、これから少しでも増やすようにする必要がある。	親族以外の面会が少ない現状ではありますが、縁のある場所へ訪れる機会を増やしていけるように取り組んだり、家族と外食やお墓参りに出かける事が出来るように取り組んでいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が関わりあえるように職員が間に入り支援している。		

グループホーム千葉寒川の家(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去しても、電話連絡などあったときは相談にのり出来る限り対応している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いを尊重し、すぐに対応できるように努めている。	利用者の思いや意向に関しては、日常会話からの聞き取りのほか、ケアプラン作成時のアセスメントにおいて、利用者の現状や課題を収集し、利用者の意向をケアプランに反映し、意向に沿った支援が図れるように取り組んでいます。	所定のアセスメントシートを活用し利用者の現状や課題を抽出していますが、今後はケアプランの見直しに合わせてアセスメントについても定期的な見直しを期待します。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報提供書や面談、家族からの情報を基に生活歴や暮らし方等の情報把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態を観察し、その日の状態に応じた対応を心がけている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族からの意見や要望をもとに、職員で話し合い介護計画を作成している。	アセスメントにおいて利用者の現状や課題を抽出し、担当者会議において職員の意見を収集し、総合的な意見を踏まえケアプランを作成しています。ケアプランに掲げた目標についてはモニタリングを行い、達成状況を確認しています。	ケアプランの見直し時期を明確にし、プランを見直した際には、新しい書式に家族、利用者の同意を得ていけるように取り組む事が望まれます。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録・申し送り等で情報を共有したり、毎月ユニット毎に会議を行っている。見直しのほうは		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	そのときの状況やニーズに応じて柔軟な考え支援するように努めている。		

グループホーム千葉寒川の家(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会の草取りや祭りにはできる範囲で参加している。地域資源については把握できていないこともある為今後職員全員が把握できるようにする。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問往診で対応している。月に2回往診を受けている。体調不良のときには、訪問医がその都度対応してくれている。	ホーム提携先のクリニックの往診が月に2回あり、主治医とも24時間連絡が取れる体制を築いています。利用者の体調変化の際にも主治医に連絡を入れ往診に訪れており、必要な医療が受けられる体制を築いています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の状況や様子を伝えたり、相談し適切な往診が受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、面会や電話連絡で状況報告を受けている。入院・退院時は往診に来ていただいている訪問医と連携し対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療サービスの提供は困難であるができる限り本人・家族の要望に応えられるように支援していく。	重度化した場合や終末期のあり方については、利用契約の際に「医療連携体制加算についての同意書」を交わし、看取りに関する指針や重度化した場合における対応について説明しています。利用中重度化が進む際には、主治医、家族と今後の方針を検討することとしています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部で勉強会や研修を行っている。希望者が初級救命等の外部講習に参加している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災、避難訓練を行っている。全職員が災害時の対応ができるように、様々な場面を想定し訓練をしている。	平成27年12月と平成28年4月に火災を想定した避難訓練を実施しています。点検票に基づく自己点検も毎日実施しています。防災マニュアルの整備や備蓄品の確保、また水害に備え事務所内にハザードマップを掲示しています。	

グループホーム千葉寒川の家(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々との関係で馴れ合いになって言葉が不適切になることがある。研修をしたり、注意をしたりし、尊重した言葉かけができるようにしていく。	利用者の誇りやプライバシーを損ねないように、声掛けの様子がおかしいと感じた時には職員同士で注意をし合う環境を目指し日々取り組んでいます。また、内部研修での接遇を取り上げ、職員間の意識を高めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話の中から本人の思いや希望がひきだせるようにしている。自己決定ができるように本人の意思を尊重するようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースに添った支援をし、買い物や散歩など随時対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴後など本人が着たい洋服をきれいに洋服を選んでもらうようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食後に女性の利用者様に手伝っていただいている。できる限り月に1度外食などで食べたい物を選び食事に楽しみをもてるようにしている。	食事の準備では、出来る限り利用者の力を活かし、食事の盛り付けや配膳などに関わることが出来るように支援しています。毎月一度は各ユニット個別対応や全体で外食を行い、食事の楽しみにつなげています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に合わせた食事量、水分提供をおこなっている。個人やご家族様が購入したものを提供したり、食事形態などホームでできる範囲対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝、夕に口腔ケアを実施している。また月に2回訪問歯科を利用している利用者様もいる。昼食後にも口腔ケアできるように支援していく。		

グループホーム千葉寒川の家(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を用いてできる限り排泄パターンを把握し、トイレ誘導等の支援を行っている。	利用者個々の排泄状況は「排尿チェック表」に記録し、利用者の排泄パターンを職員間で共有しています。日中に関しては、定時の声かけや誘導によりトイレで排泄できるように支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表を用いて、排便管理を行っている。訪問医や看護師と連携し便秘の予防と早期対応に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週3回入浴の機会を設けている。曜日や時間帯を決めているがこのペースで入浴できるように支援している。	入浴に関しては週に3回入浴できるように支援しています。入浴日は男女交互に設定し、利用者個々のペースや体調を配慮し、心身共にリラックスできる環境を作り、ゆっくりと安全に入浴できるように支援しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の状況やペースに応じて、休息したり安眠できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	申し送りを行い、薬の増減や内容変更については情報共有している。副作用については訪問医にきいたりし、状態の確認把握に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食後の食器拭きに役割をもっている利用者様もいる。役割を持っていない利用者様には買い物や散歩などで支援し、喜びのある日々を過ごせるように支援していく。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣は天気の良い日などに散歩にいけるよう支援している。職員と出かけたくない利用者様もいるので通院時はご家族の方に対応して頂き、外に出るきっかけづくりに努めている。	天候の良い日にはホーム周辺の散歩に出かけたり、月に一度各ユニット外食に出かける等、戸外活動の充実に取り組んでいます。利用者の嗜好品についても近所のお店に職員が同行し利用者と一緒に買い物ができるよう取り組んでいます。	



グループホーム千葉寒川の家(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理している利用者様もいる。利用者様が希望したときに買い物ができるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様が希望したときにホームの電話を使用したり、外の公衆電話まで行き電話をかけられるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節が感じれるように掲示している。今後は写真なども掲示し、生活感が感じられたりしていく。室内の温度は利用者様に合った温度にできるだけできるようにしている。	リビングには、利用者が描いた作品や行事の写真を掲示しているほか、季節に合わせた装飾品の掲示など季節感が感じられるように配慮しています。温度や湿度にも配慮し、利用者が居心地良く過ごせるように取り組んでいます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースは個々のペースでゆっくり過ごせるようにしている。中庭には椅子を置き日光浴ができるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様の写真や使い慣れたものを置き、利用者様が過ごしやすい環境にできるようにしている。	居室内には、家族の写真や仏壇を置く等、本人や家族と相談し、ご自身の部屋として居心地良く過ごせるように配慮しています。居室内の掃除も日々行い、衛生面にも配慮しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	通路や利用者様1人1人の行動の妨げにならないよう物はおかないようにしている。また夜間は電気をとところどころつけ、安全に移動できるようにしている。		